暮らしやすいまち

元気ですか。

こちらは変わりなくやっています。障害者としての生活も今ではすっかり板についた感じです。

不思議と言えば、本当に不思議な話です。十九歳まではごく普通に暮らしていた僕が、急に障害者になり、おまけにその原因が不明なのですから。ゴールデンウィークに君たちと遊びに行った翌日、急に足の感覚が無くなって入院、たった三週間で完全に動かなくなったのですからね。でも、リハビリをしたり、専門学校にも通ったおかげで、今の仕事も見つかりました。毎日、図面を描いたり、コンピュータを扱ったりしながら、けっこう楽しくやっています。

そんなふうに今の暮らしそのものにはそれ程不満はないのですが、外出をする時には、ちょっとね。とてもいい街だけど、坂が多いため、店の入り口も階段のところが多いし、僕にとっては一苦労です。特にファミリーレストランは駐車場完備なので、車で行けるのはいいとしても、二階でエレベーターがないと、僕などは絶対に入れません。

公共の施設ではそれなりに考えてつくられているようですが、それでも、せっかくスロープやエレベーターがつくってあるのに、非常に使いづらいものもなかにはあって、これは一体何なんだろうと思います。傾斜が急すぎて車椅子で上がれないとか、エレベーターの中で身動きできないとか。自分では使わない人が設計するから、そういうおかしなことになるんでしょうか。

それに、障害者というのは千差万別で、例えば手すりがあったほうがいい人もいるし、僕なんかはあるとじゃまになるしね。街のなにもかもを障害者に合わせるというのも、急には無理かも知れないけれど、でも理想としては、いろんな人が共存できるような、やさしい街がいいですね。

こうなったおかげで、いろんなことを考えます。ではまた。

（栄区　S・Nさん　二十五歳）

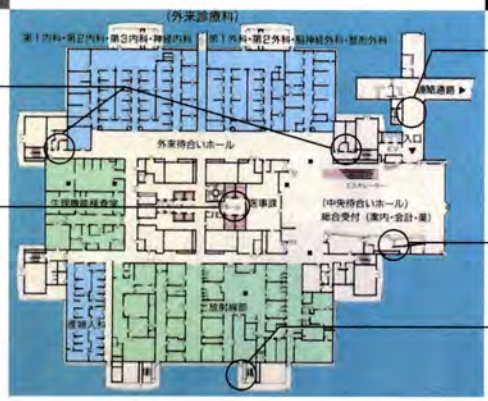
福祉の都市環境づくり

「福祉の都市環境づくりマニュアル」（平成3年度・横浜市）

・横浜市では、全ての人が基本的人権を尊重され、安心して生活し、自らの意思で自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加することができる福祉のまちづくりを推進するため、昭和五十二年に制定した「横浜市福祉の都市環境づくり推進指針」を踏まえ、平成九年四月一日「横浜市福祉のまちづくり条例」を制定しました。横浜市、事業者及び市民の責務を明らかにするとともに、福祉のまちづくりに関する基本的事項を定め、施策を総合的かつ計画的に進めます。

●車いす仕様のトイレ

●駅から病院受付まで段差なく行ける



●２階平面（受付）

●眼下ブロックの手すりと通路

●広く車いすでも利用しやすい受付カウンター

横浜市住宅基本計画　高齢化社会に対応した施策

●安定した居住
●多様な住まい
●安全な居住環境

「高齢者住宅対策指針」

公的住宅における高齢者・障害者向け住宅の供給	●バリアフリー設計の一般化 ●市営住宅における取り組み
公的住宅と生活支援サービスの先導的連携	●基礎的な生活支援を伴う住宅の供給 ●横浜型シニア住宅の供給 ●高齢者向け住宅とサービス提供体制との連携
民間住宅における高齢者・障害者対応の推進	●バリアフリー設計の普及・誘導 ●民間住宅の改造・更新への支援 ●民間賃貸住宅における入居の支援 ●多様な住まい方への支援
高齢者・障害者も暮らしやすいまちづくり	●安全で暮らしやすいまちづくりの推進 ●高齢者・障害者の住まいに関する調査・研究の継続
総合的な住情報の提供	●住情報の提供体制の整備・充実 ●住情報提供体制の核施設の機能充実

（平成7年度・横浜市）

高齢化社会に対応した住まいづくりの推進

高齢者・障害者の安全居住を支援する

・高齢者の居住をめぐる様々な問題の中で、特に重要なのは、安定した居住の場の確保です。高齢者が、地域の中で安全に暮らし、また安心して生活していけるよう、高齢者向け住宅の供給をはじめとした各種施策の推進に取り組みます。

・市民の住生活や意識の変化に伴い、親子の住まい方、住宅の種類や資産活用、生活関連サービス等に新たなニーズが生まれています。これらを含めた多様なニーズに対し支援していきます。

・高齢化社会に対応し、高齢者・障害者をはじめとした誰もが安全に暮らせる住まいづくり、まちづくりが求められています。このため幅広い取り組みを行います。

・高齢者に関する取り組みを総合的に取りまとめた「高齢者住宅対策指針」を策定し、これに基づいた施策の展開を図ります。

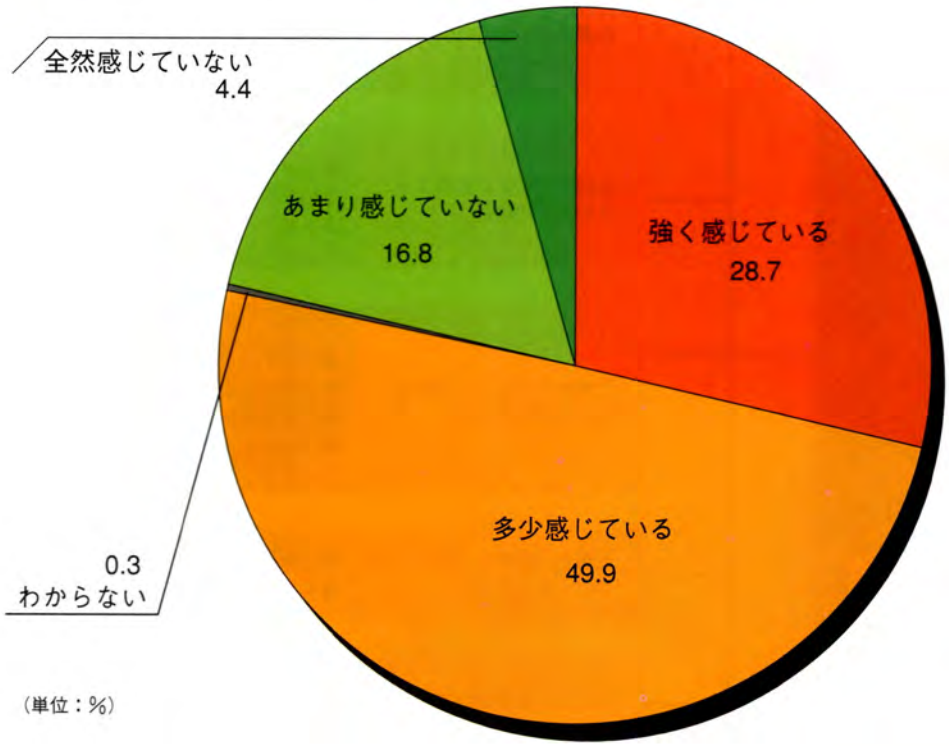
・障害者の生活に配慮した公的住宅の整備と民間住宅の整備誘導をすすめます。

「横浜市住宅基本計画」抜粋

震災対策

大地震に対する不安感

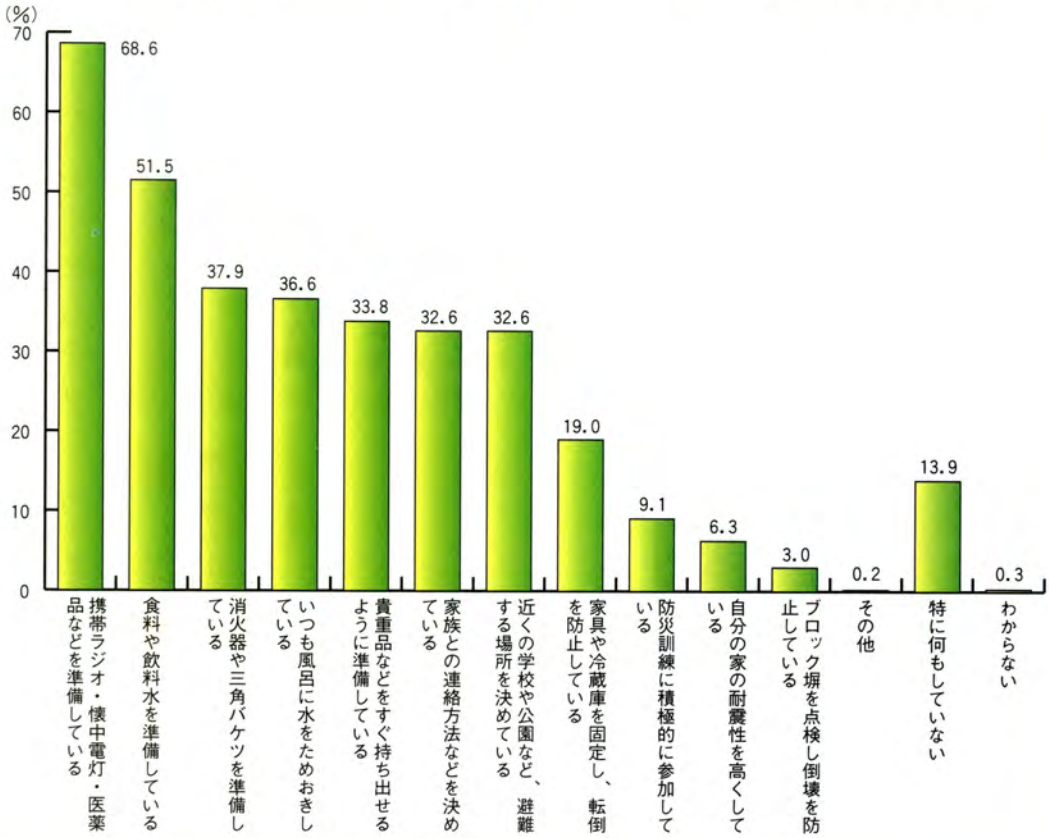
「横浜市民意識調査」（平成7年度・横浜市）



・大地震に対する不安感は「強く感じている」（二八・七%）と「多少感じている」（四九・九%）を合わせた『感じている』は七八・六%とほぼ八割。

大地震に対する備え（複数回答）

「横浜市民意識調査」（平成7年度・横浜市）



・大地震に対する備えでは「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」（六八・六%）と「食料や飲料水を準備している」（五一・五%）を半数以上の市民が実行。

住宅の改築―耐震改良工事―

家を建て直すことにした。思えば三十五歳の時にこの家を建てて、はや二十六年。孝志が小学校に入る年に家を建てて引っ越したんだから、俺も歳をとったよ。横浜都民と言われながら、よく会社にも通った。

最初は手直しだけと思っていたんだが、いざ改築するとなると、台所はもちろんのこと、トイレも風呂もベランダもと直したいところだらけで、費用が膨らむ膨らむ。うちのが近所で改築した人の話を聞いてきて言うには、「直すのはあまり思いどおりにいかないようよ。こんなことなら建て直せばよかった、って言ってた」。もちろん、かかる費用は建て直しと改築とではずいぶん違うけれど、一回改築すると、今度は建て直したくなるものなんだそうだ。気に入らないところが次々と出てくるらしい。考えてみれば当たり前だよな。同じ家の中に、新しいところと、古くさいところが一緒にあるんだ。そりゃ、古いところが気になるさ。

改築のために夫婦でいろんなモデルハウスを見歩くうちに、気がついたら、建て直ししかないって気になっていた。孝志に相談したら、それじゃ二世帯住宅はどうかということになって、話はとんとん拍子さ。あいつのとこも二人目ができて、考えてたらしい。ここから東京へは、俺が二十六年のあいだ通えた距離だ。若いあいつが通えないわけがない。

でも、さすがに家を取り壊すときは、何かくるものがあったよ。当時三十五の俺には家を建てるのは大仕事だった。二十五年もローンを払い続けるのかと思うと身震いしたものだ。

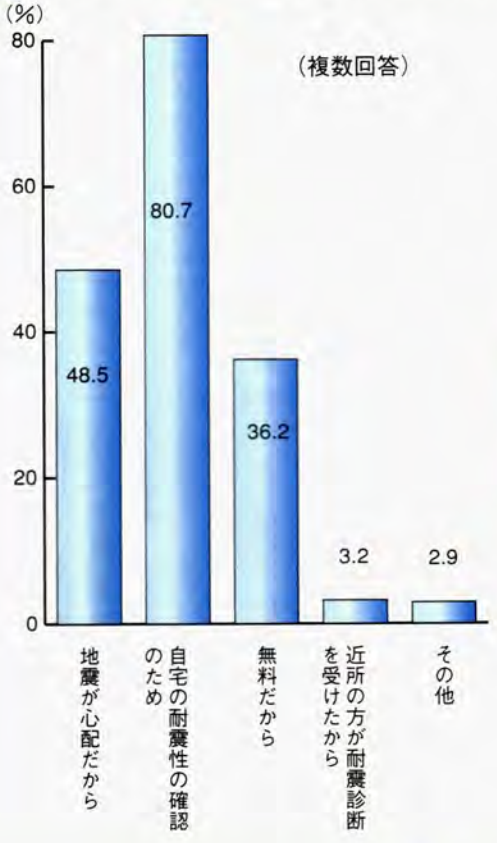
最も、その日、そんな気分を吹き飛ばすくらい笑えない話もあったけどな。解体屋が、庭のブロック塀を手で揺すったらグラっと壊れた。手で揺すっただけだぞ。家のほうはまさか大丈夫だろうなと思っていたら、物置の奥の床はシロアリの巣。生まれて始めてシロアリを見たよ。地震がきたら、塀だけじゃなく、家だって危なかった。あれであきらめもついたね。今度の家は地震を考慮してつくった、耐震設計というやつにした。とにかく、建て直しを決めてよかったと思った。

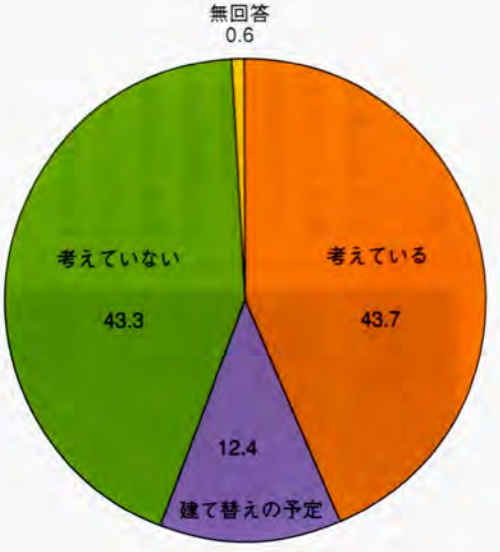
来年の初めには新居に引っ越しだ。奥さんと一緒に遊びに来て、俺の終の栖を見てくれ。

（戸塚区　S・Hさん　六十二歳）

耐震診断を受けた動機・耐震改良工事を考えているか

「建築局調べ」（平成8年度・横浜市）





（単位：%）

・耐震診断を受けた動機は「自宅の耐震性の確認のため」（八〇・七%）に続いて、「地震が心配だから」（四八・五%）。また「無料だから」（三六・二%）とも三分の一以上が回答。

・耐震改良工事を考えるかは「はい」（四三・七%）に「建て替えの予定」（一二・四%）を加えると回答者の過半数が工事に積極的。

●横浜市住宅基本計画●　地区の特性に応じたまちづくりと連動した住宅供給

都心・都心周辺部

- 木造賃貸住宅密集市街地
  - 住環境整備事業
    - ・密集住宅市街地整備促進事業　等
  - ↕ 相互連携
  - 良質な賃貸住宅の誘導
    - ・ヨコハマ・りぶいん
    - ・シニア・りぶいん　等
    - （横浜市借上型市営住宅：平成8年度より制度変更）
- 既成市街地の公共団地の建替等
  - 公共住宅の建替・供給関連事業
    - ・住宅市街地総合整備事業
    - ・コミュニティ公営住宅
    - ・地域リロケーション住宅　等
- 地域商業の活性化に貢献する住宅供給
  - 商店街整備とあわせた共同建替等による住宅供給
    - ・再開発型特定優良住宅
    - ・住宅市街地総合整備事業　等

郊外部

- 市街地区域内農地等
  - 基盤整備とあわせた住宅供給
    - ・農住まちなみ整備事業
    - ・小規模区画整理助成制度
    - ・住宅地高度利用地区計画制度
    - ・りぶいん等の公的賃貸住宅の供給　等
- 大規模団地の建替等
  - ・基盤整備、市民利用施設の整備などを伴う大規模団地の建替事業
  - ・先進的モデルとしての住宅地形成

（平成7年度・横浜市）

地区の特性に応じた住環境整備の推進及びまちづくりと連動した住宅の供給

災害に強い安全で快適な住環境の形成と良質な住宅供給を推進する

・歴史的特性や自然的特性など、地域の特性やまちづくりの課題に対応して、災害に強い安全で快適な住環境の形成と良質な住宅供給を進めます。

・都心・都心周辺部の旧市街地では、密集した木造住宅の老朽化や不十分な基盤施設などの問題があり、また高齢単身世帯の増加や中堅ファミリー世帯の転出による人口の減少や地域商業の停滞もみられる状況になっています。しかし、今後は都心機能の拡充などに対応して、この地域での住宅供給が必要になっており、交通条件がよく利便性が高い地域の特性を生かし、住環境の改善・整備を行いつつ都市的魅力あふれる市街地住宅の供給を行っていきます。

・また、郊外区では、道路・公園等の基盤が未整備なまま市街化が進行している区域があります。今後は、宅地化農地などを活用した住宅供給、大規模団地の建替などを推進し、あわせて基盤整備や住環境の改善などを図ります。

「横浜市住宅基本計画」抜粋